

8/16 初日

# 「終戦の日」 心に響かぬ首相の誓い

ロシアのウクライナ侵略が続  
き、台湾海峡の緊張もやまな  
い。何より、自らが主導した戦  
後の抑制的な安保政策の大転換  
を経た「終戦の日」である。

「戦争の惨禍を一度と繰り返さ  
ない」と誓つても、昨年の式辞  
をただ引き写しただけの内容か  
らは、その「決然たる誓い」は  
心に響いてしない。

敗戦から78年のはじめ、全国  
戦没者追悼式が開かれた。岸田  
首相の式辞は、前任者の安倍・  
菅両首相をなぞった昨年から、  
ほとんど変わらず、不戦の誓い  
の原点である先の戦争をどう見  
てらるのか、政治指導者として  
の深い見識や歴史観はうかがえ  
なかつた。

戦後日本の歩みを「歴史の教  
訓を深く胸に刻み、世界の平和  
と繁栄に力を尽してきた」と  
振り返つたが、アジアの近隣諸  
国に対する加害責任には今年も  
触れなかつた。

93年の細川護熙氏以来、歴代  
首相は、自由党政権時代を含  
め、「深い反省」や「哀悼の  
意」を表明してきた。ところ  
が、第2次政権下の安倍氏が言  
及をやめ、後任の菅、岸田氏も  
それを踏襲している。

岸田政権は中国や北朝鮮を念  
頭に、防衛力の抜本的強化を掲  
げ、敵基地攻撃能力の保有や防  
衛費の一倍増を決めた。今改  
めて加害の事実とも眞摯に向き  
合ひ、「平和国家」とし  
ての日本の意思を内外に示し、  
地域の信頼醸成につなげる機会  
となつたのではないか。

きのうは高市早苗経済安全保障  
担当大臣が昨年に続き、終戦の  
日の靖国神社参拝を行つた。こ  
の日の閣僚参拝は、20年に4年  
ぶりに行われ、当時の安倍首相  
に近い高市総務相や萩生田光一  
文部科学相ら4人が参拝。菅政  
権の一昨年は萩生田文科相ら3  
人、岸田政権の昨年は高市氏と

秋葉賢也復興相の2人だつた。

靖国神社は軍国主義を支えた  
国家神道の中心的施設であり、  
東京裁判で戦争責任を問われた  
A級戦犯14人が合祀されてもい  
る。今年は高市氏一人のようだ  
が、閣僚ら時の政治指導者によ  
る参拝は、遺族や一般の人々が  
犠牲者を悼むのとは全く意味が  
異なることを、改めて指摘して  
おきたい。

日本が戦争への反省を忘れ、  
過去を正当化しようとしている  
と受けどる人がいること、憲法  
が定める政教分離の觀点からの  
疑義もあることなど、思いを致す  
必要がある。

首相は歴史認識について「歴  
代内閣の立場を全体として引き  
継いでいる」と説明してきた。  
戦後50年の村山首相談話が打ち  
出し、戦後70年の安倍首相談話  
にも盛り込まれた「痛切な反省」と「心からのお詫び」を決  
して忘れてはならない。